

2004年1月29日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社
ノバルティス地域医療賞委員会

第11回ノバルティス地域医療賞受賞者決定

昨年12月4日に行われましたノバルティス地域医療賞委員会におきまして「第11回ノバルティス地域医療賞」の受賞者5名が下記のとおり決定しました。受賞者には、1月29日東京のホテルオークラにおいて行われた贈呈式で、表彰状と記念楯、副賞として100万円が贈呈されました。

この賞は、1993年に、住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上のために著しく貢献された、日本医師会会員の方を顕彰することを目的に設立されたものです。

記

< 第11回ノバルティス地域医療賞 受賞者 > 五十音順・敬称略

地域	受賞者	年齢	性別	功績タイトル
埼玉県さいたま市	うえはら まさお 上原 正夫	77歳	男性	地区住民への講演の継続と地区医師会関連活動
鹿児島県薩摩郡 下甕村(しもこしきそん)	せとうえ けんじろう 瀬戸上 健二郎	62歳	男性	離島へき地医療の充実と向上への尽力
山口県周南市	たけうち きよみ 竹内 清海	91歳	男性	へき地医療と地区医師会施設への多大な貢献
三重県名張市	まちい にさく 町井 二作	86歳	男性	地域住民の日常生活に密着した保健医療サービスと救急医療への尽力
長崎県佐世保市	まつむら てつお 松村 哲男	73歳	男性	辺地や離島の身体障害者検診と障害者更正相談事業推進

以上

- 添付資料：「第11回ノバルティス地域医療賞」受賞者の略歴と功績
ノバルティス地域医療賞の経緯
ノバルティス地域医療賞の規定
ノバルティス地域医療賞委員会委員
第1回～10回受賞者一覧

うえはら まさお

上原 正夫 (77歳)

(昭和24年 順天堂医学専門学校卒業 埼玉県医師会)

[功績]

昭和 38 年に開業以来、日夜地域住民の健康増進に尽力している。特に患者さんには親身になって対応し、心のケアを怠らず、多くの患者家族の厚い信頼と尊敬を得ている。また、学校医としても児童・生徒・教職員の健康管理に至るまで力を注いでいる。浦和区領家地区で自治会及び老人会顧問として中年から高齢者を対象に月 1~3 回、健康管理や医療情報等の講演を続け、地域住民から大変感謝されている。また、旧浦和市医師会役員として市行政と地域住民の医療福祉の向上を折衝する一方、浦和准看護婦学校で看護師の養成・教育に努力し、現在は福祉部長として浦和医師会居宅介護支援センター事業を推進し、成果を上げている。県では結核予防法審査員委員長、国保審査委員医科再審査部委員として貢献していた。

[現職]

上原医院院長、埼玉県内科医会監事、浦和医師会参与、浦和医師会福祉部所長、本太中学校学校医、社会福祉法人浦和乳幼児センター囑託医

せとうえ けんじろう

瀬戸上 健二郎 (62歳)

(昭和41年 鹿児島大学医学部卒業 鹿児島県医師会)

[功績]

昭和 53 年から医療技術の研鑽を重ねながら離島へき地医療の充実と向上に大いに尽力している。赴任当時の下甑村は医療技術に乏しく、離島のため住民は常に事故や急病に対する不安があった。赴任後は救急整備に取り組み、何時でも手術できる体制を作り重症患者を数多く救ったことで住民の不安感は一掃された。その後も人工透析装置や CT 装置を整備し、現在は複数の医師を抱えがんの手術も普通にできる体制が整い、全国の離島医療のモデルとなり、その礎を築いた貢献は絶大である。さらに、診診連携により甑島を離島医療の先進地にしようと「甑島地区医学研究会」を呼びかけ年数回の研修会を開催するなど、医療環境の向上を図った。このことは医師確保にも大きく結びつき、全国各地から医学生が実習に訪れている。

[現職]

村立手打診療所院長、全国国民健康保険診療施設協議会鹿児島県支部長、薩摩郡医師会理事

たけうち きよみ

竹内 清海（91歳）

（昭和14年 九州大学医学部卒業 山口県医師会）

〔功績〕

昭和21年に開業した戸田地区は、徳山市(現:周南市)と防府市に挟まれたへき地で、山間に民家が点在しており、当時は積雪での通行止の中、数キロから数十キロの山道を徒歩や自転車で往診した。時には嵐の中、岬に漁船で往診するなど、昼夜を問わず活動し、地域住民の信頼と感謝を一身に受けてきた。地域住民から「神様」と慕われているのは、このような献身的な姿勢によるものである。また、長年学校医としても児童生徒の健康増進・健全育成に貢献し、特に昭和31年に徳山地区に発生した小児マヒには献身的に取り組んだ。さらに、地域住民の福祉向上と「痛みのわかる医療・看護」を目標に掲げた徳山医師会が運営するオープンシステム徳山医師会病院と徳山看護専門学校の基礎を築いた功績は多大である。

〔現職〕

竹内医院院長

まちい にさく

町井 二作（86歳）

（昭和16年 岩手医学専門学校卒業 三重県医師会）

〔功績〕

地域密着型の医師を志して昭和33年に開業以来、献身的に地域住民の健康管理・相談・教育、特に日常生活に密着した保健医療サービスをモットーに医療に貢献した。昭和34年の伊勢湾台風では医療救護の組織が無かったため、仮の診療所を開くなど、特に地域住民が安心して治療を受けられる環境作りに力を注いだ。当時の名張市には市立病院が無く、安定した休日診療の供給が必要で、市応急診療所開設の際は医師会の裁定委員の立場から問題を解決し、県下でも有数の診療所となった。また、人口が急増する中、一次救急医療は開業医が、二次救急医療は市立病院とする病診連携を機能した市立病院の開院にも尽力した。

〔現職〕

田合医院院長、名賀医師会裁定委員

まつむら てつお

松村 哲男（73歳）

（昭和31年 九州大学医学部卒業 長崎県医師会）

〔功績〕

昭和41年に開業以来、地域に密着した耳鼻科専門医として診療に従事している。昭和56年に佐世保身体障害者更正相談所の医師を委嘱されて以来約20年間にわたり、(1)身体障害者手帳の申請及び等級変更、(2)補装具相談と判定及び適合判定、(3)更正医療の相談と判定、(4)その他身体の障害に関する相談などの業務に従事している。特に巡回相談では、近隣の市町村をはじめ五島列島など交通の不便な地域に、年6～7ヶ所の診察・相談業務に従事している。このように、医療機関が少ない地域での身体障害に関する相談の機会が無い人々に対して、長期にわたり住民の居住地まで赴き、専門医として黙々と辺地や離島の身体障害者検診に献身した医療的貢献、ならびに障害者更正相談事業の推進に尽力した功績は多大である。

〔現職〕

松村耳鼻咽喉科院長、県立佐世保ろう学校校医、佐世保身体障害者更正相談所医師、佐世保市医師会裁定委員、佐世保市立清水中学校校医、佐世保耳鼻科会会長、県立佐世保ろう学校評議員

ノバルティス地域医療賞の経緯

1993年、当時の日本チバガイギー株式会社は、日本医師会の協力を得て、Ciba地域医療賞委員会(現：ノバルティス地域医療賞委員会)を設立し、地域医療に貢献されている日本医師会会員を顕彰する制度が発足いたしました。

この制度は、住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上のために著しく貢献された医師会会員の方を顕彰するもので、名称は「Ciba地域医療賞」とされました。

1994年に第1回の贈呈式を開催し、その後、毎年1回、5名ずつの先生方が受賞されています。

なお、1997年4月に日本チバガイギー株式会社とサンド薬品株式会社が統合し、ノバルティスファーマ株式会社となりましたので、日本医師会のご理解のもと「ノバルティス地域医療賞」と名称を改めました。

本賞の運営および受賞者の選考については、別紙のとおり、日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティスファーマ株式会社の代表者で構成されるノバルティス地域医療賞委員会が行います。

本賞の概要につきましては、別紙の「ノバルティス地域医療賞」の規定をご参照ください。

「ノバルティス地域医療賞」の規定

- < 目的 > 全国各地で住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献された、日本医師会の方を表彰する。
- < 主催 > ノバルティス地域医療賞委員会
- < 後援 > 社団法人 日本医師会
- < 表彰 > 日本医師会長、または各都道府県医師会長から推薦された応募者を「ノバルティス地域医療賞委員会」（日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティス ファーマ株式会社の代表で構成）にて受賞者を選考し、毎年一回表彰する。
受賞者には賞状と記念盾及び副賞 100 万円を贈呈する。
- < 応募要領 > (1) 対象者
日本国内を主たる活動地とする日本医師会員とする。
(グループ活動は除く)
- (2) 推薦
原則として、1 推薦者から 1 名とする。
- (3) 応募方法
推薦者は所定の用紙にて推薦し、毎年 10 月 31 日迄にノバルティス地域医療賞委員会事務局に提出する。
- (4) 事務局
「ノバルティス地域医療賞委員会事務局」

〒106 - 8618

東京都港区西麻布4丁目17番30号

ノバルティス ファーマ株式会社

渉外部内

電話：03 - 3797 - 8519

FAX：03 - 3797 - 4497

ノバルティス地域医療賞委員会委員

学識経験者（2名）

小泉 明 日本医学会 副会長
東京大学 名誉教授

森岡 恭彦 日本赤十字社医療センター 名誉院長
東京大学 名誉教授

社団法人 日本医師会（3名）

委員長

坪井 栄孝 会長

石川 高明 副会長

雪下 國雄 常任理事

ノバルティス ファーマ株式会社（1名）

大橋 勇郎 取締役副社長

オブザーバー（1名）

社団法人 日本医師会
羽生田 俊 常任理事

ノバルティス地域医療賞 これまでの受賞者

(五十音順・敬称略)

第 1 回	第 6 回
神奈川県 小川 武満 静岡県 北村 廉作 宮崎県 清永 恕 大分県 杉田 肇 大阪府 橋本 博	香川県 浮田 春雄 宮城県 大井 康 福岡県 清沢 博 沖縄県 金城 和男 鳥取県 齋藤 五彦
第 2 回	第 7 回
東京都 塚部 祥生 島根県 花田 カズ 京都府 原 治 宮城県 堀田 廣行 茨城県 室生 勝	佐賀県 内藤 光二 愛媛県 奈良 邦夫 東京都 萩原 謙二 広島県 平田 敏夫 愛知県 森 澄
第 3 回	第 8 回
群馬県 織田 敏郎 岐阜県 黒岩 翠 岡山県 福島 功 愛媛県 藤原 寿則 大阪府 保坂 智子	高知県 島田 作 徳島県 中山 壽孝 沖縄県 長田 紀春 神奈川県 福島 弘毅 長崎県 牟田 博夫
第 4 回	第 9 回
京都府 伊藤 盛夫 宮城県 庄司 眞 埼玉県 鈴木 邦明 東京都 徳光 裕子 鹿児島県 牧角 仙丞	鹿児島県 有村 周雄 和歌山県 浦 淳市 岐阜県 諏訪 求仁雄 埼玉県 高橋 康 秋田県 福永 光子
第 5 回	第 10 回
宮城県 斎藤 一夫 群馬県 角田 勤 静岡県 三輪 淳 神奈川県 山口 肇久 岐阜県 渡辺 茂樹	東京都 浅川 春巳 兵庫県 飯田 英夫 埼玉県 佐藤 幸子 北海道 柳内 統 沖縄県 吉田 春子 < 10 周年記念賞 > 鳥取県 松田 泰彦